

令和2事業年度

決 算 報 告 書

自：令和2年4月1日

至：令和3年3月31日

国立大学法人小樽商科大学

令和2年度 決算報告書

国立大学法人小樽商科大学

(単位：百万円)

区 分	予 算 額	決 算 額	差 額 (決算-予算)	備 考
収入				
運営費交付金	1,209	1,348	139	(注1)
施設整備費補助金	184	165	△19	(注2)
補助金等収入	26	307	281	(注3)
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	15	15	-	
自己収入	1,390	1,269	△121	
授業料、入学金及び検定料収入	1,353	1,235	△118	(注4)
雑収入	37	34	△3	(注5)
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	157	141	△16	(注6)
引当金取崩	-	4	4	(注7)
計	2,981	3,250	269	
支出				
業務費	2,599	2,597	△2	
教育研究経費	2,599	2,597	△2	(注8)
施設整備費	199	180	△19	(注9)
補助金等	26	193	167	(注10)
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	157	117	△40	(注11)
計	2,981	3,087	106	
収入-支出	-	163	163	

○予算と決算の差異について

- (注1) 運営費交付金については、予算段階では予定していなかった特殊要因運営費交付金の追加交付及び授業料免除の追加配分があったことにより、予算額に比して決算額が139百万円多額となっております。
- (注2) 施設整備費補助金については、一部事業が翌年度に繰越となったため、予算額に比して決算額が19百万円少額となっております。
- (注3) 補助金等収入については、予算段階では予定していなかった資金の獲得に努めたことにより、予算額に比して決算額が281百万円多額となっております。また、補助金等収入には、授業料等減免費交付金が114百万円含まれており、本補助金は授業料等免除に使用しております。
- (注4) 授業料、入学金及び検定料収入については、授業料収入及び入学金収入が減少したため、予算額に比して決算額が118百万円少額となっております。
- (注5) 雑収入については、主に建物及び物件貸付料が減少したため、予算額に比して決算額が3百万円少額となっております。
- (注6) 産学連携等研究収入及び寄附金収入等については、主に受託研究費等収入が減少したため、予算額に比して決算額が16百万円少額となっております。
- (注7) 引当金取崩については、引当金による賞与及び退職金の支払いに伴い経費相当分を取り崩したことにより、予算額に比して決算額が4百万円多額となっております。
- (注8) 業務費については、コロナ禍による出張の減少等により、予算額に比して決算額が2百万円少額となっております。
- (注9) 施設整備費については、(注2)に示した理由により、予算額に比して決算額が19百万円少額となっております。
- (注10) 補助金等については、(注3)に示した理由により、予算額に比して決算額が167百万円多額となっております。
- (注11) 産学連携等研究経費及び寄附金事業費等については、(注6)に示した理由に加え、寄附金事業費が少額であったことから、予算額に比して決算額が40百万円少額となっております。